



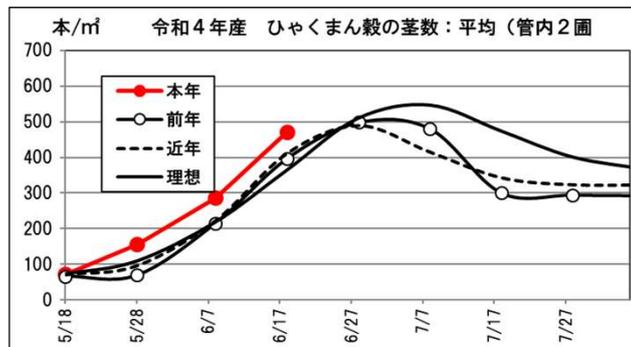
# ひやくまん穀通信

## 1 生育状況

6月は気温が平年より高く推移し、草丈は近年より長く、茎数は多くなっている。**葉数の展開は近年より2日程度早く**なっている。

表1 生育観測田(管内2カ所:6月19日時点)

	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉齢 (L)
本年	45.2	470	9.2
近年	41.3	412	8.8



(参考)R5年出穂期予想→**8月1日~8月5日**(近年平均8月5日)

## 2 穂肥の施用について

○『**一発肥料**』の上乗せ追肥の判断について

7月15日以降、**葉色4を下回る**場合は、下記のとおり上乗せ追肥を施用する。

前年の単収がコシヒカリを下回っている場合は、特に上乗せ追肥の施用について検討する(JAまたは農林総合事務所にご相談ください)。

追肥	時期	出穂10~7日前
	施用量	優米味R 13 kg/10a(窒素量 2 kg/10a)

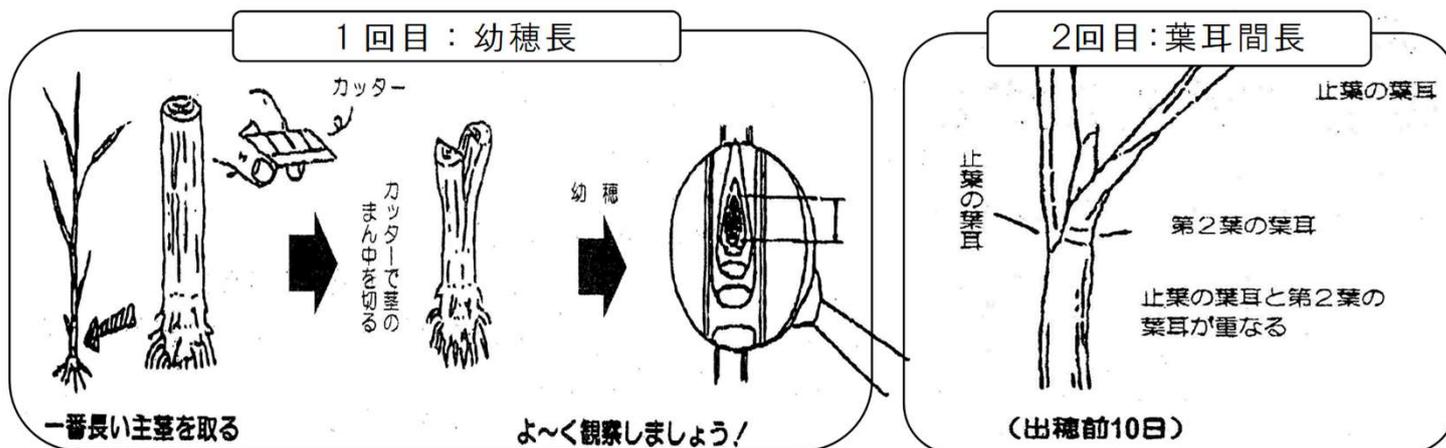
○『**分施**』の場合

1回目:出穂20日前 **幼穂長を確認し、生育状況と葉色に応じて**施用時期、施用量を決める。

2回目:出穂10日前 1回目に施用した10日後を目安に施用する。

区分	施用時期	幼穂長	肥料名	10a当たり施用量	施用時期の見込み
穂肥1回目	出穂 <b>20</b> 日前	<b>2~3mm</b>	優米味R	13~16kg	7月14日頃
穂肥2回目	出穂 <b>10</b> 日前	—		19~23kg	7月24日頃
穂肥一発	出穂 <b>23</b> 日前	<b>1~2mm</b>	BBいしかわ穂肥一発055号	30~35kg	7月11日頃

○出穂期の見分け方

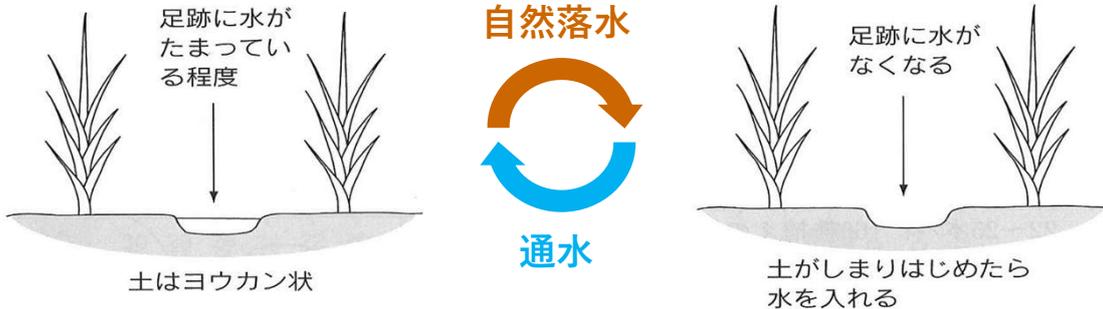


### 3 今後の管理

(1) 幼穂形成期以降(7月10日頃)～収穫直前までの水管理

- ・ **飽水管理**を徹底し、根の活力維持を図る。

土壌水分の保ち方



※良くない例  
(乾かしすぎ)



**大ヒビ厳禁!**  
(根が切断され  
品質が低下する)

**このサイクルを刈り取り直前まで繰り返す!!  
(特に出穂後20日間は粒の大きさと収量を  
決めるので要注意!)**

#### 注意点

- ・ 台風の接近が予想される場合は、**事前に深水とし**、フェーンや強風の被害軽減を図る(台風の**通過後は速やかに排水**する)。
- ・ 高温となる日中の湛水は根を痛めるので避ける。**通水は夕方か朝方**とし、根の健全化に努める。
- ・ 高夜温は稲体の消耗が激しくなり、乳白粒の多発が懸念されます。**夜温が高くなると予想される場合は夜間通水の実施**をお願いします。

(2) 集落ぐるみの草刈りでカメムシの生息密度を抑えましょう

- ・ 現在、雑草地や畦畔でカメムシ類幼虫が増殖中。
- ・ 7月10日までの草刈りで、幼虫のエサを無くし、密度を抑えましょう。



アカスジカスミカメムシ  
体長5～6mm、飛翔性



アカヒゲホソミドリカスミカメ  
体長5～6mm、飛翔性



クモヘリカメムシ  
体長15～6mm、飛翔性

問い合わせ先 **J A O O O O 課** (電話: 0761-00-0000)  
**南加賀農林総合事務所農業振興部** (電話: 0761-23-1703)  
**加賀農林事務所** (電話: 0761-72-8511)